

本気で日本の未来を守りたい人 集まれ！！

～こどもの未来を守る会（山口）のご紹介～

「自己肯定感の低い日本の若者」

【日本の若者は自己評価が低く、将来を悲観している～】

2014年、内閣府が世界7カ国の13～29歳の男女を対象に実施した意識調査結果によると、こんな傾向が鮮明となりました。（右図参照）その一方で、「自国の役に立ちたい」と考える若者の割合は日本がトップだという結果も出ています。

『社会貢献したいのに自信がもてない』

そんな日本の若者の姿が浮かび上がってきます。

同世代の子供を持つ母親として、我が子を見ていてもそんな風を感じる時があります。そして、自分の若い頃を振り返ってみると、やはりそうだったようにも思うのです。

その理由を考えたとき、今の日本には、『根本的に』自己肯定感を育めるような教育が欠けているのではないかと、という思いにいたります。

自己肯定感の大切さは、近年大きくクローズアップされるようになりました。

その背景には、うつ病に苦しむ人や、自殺者の増加も影響していると思われます。

ですが、一向に減少する傾向にはありません。なぜでしょうか。

一部の見識者の間では、『**本来持っていた日本の精神性を軽んじ、欧米の物質主義、個人主義を取り入れすぎたことに原因があるのではないかと**』と考えられはじめています。

「来た時よりも美しく」

私達日本人にとっては耳慣れた言葉であり、みなさんも子供時代の遠足のときなどに、一度は耳にした言葉ではないでしょうか。

この言葉には、後に来る人のために、自分のしたことは自分できちんと後始末をして帰りましょう、という意味が込められています。

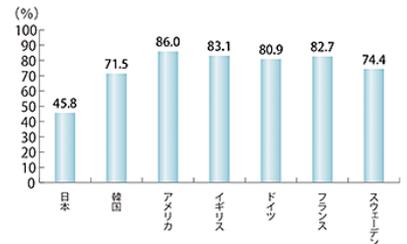
「自分達さえ良い思いをすればいい」という発想の方には、どうもこの言葉はピンとこないようです。

ある国の人には平気で道にゴミを捨て、それを注意すると、「掃除をする人の仕事をつくってやっているんだ」と開き直ることもあるそうです。

けれど、日本は「八紘一宇（世界を一つの家族にする）の精神」をもとに、神武天皇によって建国された国であり、「大いなる調和を重んじる国」として、他国から大和（やまと）と呼ばれたという史実もあります。他国の文化や宗教を受け入れ、うまく調和させ、融合させる、というのは、日本人でしか成し得ないことだ、と世界の人々が認めているのです。

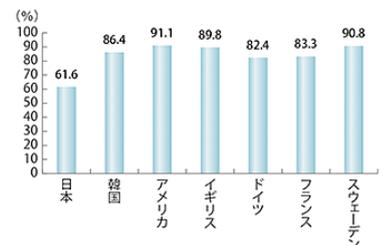
常に周りの人や、後に続く人たちのことを考え、大和（やまと）の精神で行動してきたのが、天皇陛下を始めとするやまと民族であり、皇紀 2676年という、世界で最も長い歴史を持つに至ったのは、その精神によるところが大きいと思われる。

図表1 自分自身に満足している



(注)「次のことがあなた自身にどのくらいあてはまりますか。」との問いに対し、「私は、自分自身に満足している」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合。

図表8 将来への希望



(注)「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。」との問いに対し、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答した者の割合。



やまとの精神よりアメリカの精神の方がいい？

日本人として産まれたら、多かれ少なかれ、このような大和（やまと）の精神が遺伝子に組み込まれているはずですが。

けれど、戦後急速にアメリカの影響を受けたことにより、「物質的に豊かなことが良いことである」という唯物思想が日本に流れ込んできました。そのおかげで、今私たちが、豊かで安全な社会で生活が出来ているのは間違いなく、ありがたいことだと思います。

ですが、その一方で、『自分たちさえよければいい』という誤った利己主義、そして、自分たちの身の安全や健康すら、他人まかせで考えてしまう思考が当たり前となりつつあるように思うのです。加えて、『日本の文化は古く陰険で、アメリカの文化は明るくて新しい』という表面的な認識により、自分の国を誇れない、愛せない人が増えてしまっているのを感じます。

このままでいいのでしょうか？

私たちは、現状がこれ以上続けば、未来の日本を担う子供達の元気が、どんどんなくなっていくのではないかと危機感を覚えています。

とくに、心が元気である、ということは、物質的な豊かさとは関係がありません。

いえ、むしろ豊かになればなるほど、それに依存した弱い心になっていくような気がします。

そして、子どもの元気がなくなる、ということは、国の未来が危ない、ということに繋がりがねません。今こそ本当の意味で、日本人としての誇りを取り戻し、日本人の感覚に合った豊かさや、幸せを感じられる生活を手に入れるために、心を整えていくことが必要なのではないでしょうか。

どうやって子どもを育てていったらいいの？ ～迷う子育て世代～

おそらく親が産まれた我が子を見て、一番に願う事は、「健康で、幸せになってほしい」ということに尽きると思います。

それが成長するにつれ、他人と比較して、出来ていないところを卑下したり、必要以上に頑張らせたりしてしまう。

知らず知らずのうちに、社会の常識に我が子をあてはめようとしてしまう。

『本当に大切なことはそういうことではない』と心のどこかで知っていながらも、我が子に、「将来幸せになるために、いい学校に行って、いい就職をして、いい生活ができるよう、勉強をがんばりなさい。」と言ってしまう... そのような葛藤を、親なら一度は抱えた事があると思います。

本当に大切なことを伝えたい

そんな子育て世代の方の助けとなり、未来を担う子ども達の「生きる力」に繋がっていくことをしたい。

思想の違い、利害の有る無しを超え、宗教なども関係なく。

そのような思いで作ったのが、『こどもの未来を守る会（山口）』です。

健康や食習慣、日本文化や歴史教育など、あらゆる観点から、子ども達が元気になるために、今、出来る事を本気で考え、発信していくことを目的として、少しずつ有志が集まってくれています。営利目的ではないので、この活動を通して金銭的な利益を得たい、と考える方には向かないでしょうが、未来をより良くするための知恵や経験を増やしたい方には共鳴していただけるだろう、と確信しております。そしてそれはきっと、お金で得られる幸せ以上の喜びをもたらしてくれることでしょう。個人的には、そういう生き方を体現し、子ども達にみせていきたいと願っております。共感してくださる方は、ぜひ、今後の活動を応援していただくと幸いです。

山口こどもの未来を守る会 代表 八塚 尋子



赤塚高仁氏 講演会のご案内



赤塚高仁（あかつか こうじ）

赤塚建設株式会社 代表取締役
1959年三重県津市生まれ 明治大学経済学部卒業
大手ゼネコンで営業を務め、四国で瀬戸大橋などのプロジェクトに関わったあと、赤塚建設を継ぐ。日本の宇宙開発の父、ロケット博士として名高い 故・糸川英夫博士の一番の思想継承者であり、日本とイスラエルを結ぶ交流に心を尽くす中で、「民族の歴史を失った民族は必ず滅びる」というユダヤの格言や、荒野に挑むユダヤ民族との交流を通して、祖国日本を洞察。そして、ヤマト人の歴史を取り戻すべく、日本の神話に学ぶやまところの講演会を行っている。
伊勢神宮で毎年12月に行われる月嘗祭に「神話を体感する会」を主催。また、山本加津子さんの映画などにも出演し、そのユニークな経歴と活動に全国各地から注目が集まっている。
著書「蝸牛が翔んだ時」日本教文社
「世界標準の家に暮らそう」
「聖なる約束」きれい・ねっと
「ヤマト人への手紙」きれい・ねっと



『百年先、千年先の日本を守る為に、いまこそ、それぞれの胸に眠っている日本人としての「やまとのこころ」を思い出す必要がある』

そう言いながら、赤塚高仁さんは全国各地で「やまところのキャンドルサービス」という講演活動を行っておられます。そのお話は、日本神話や歴史をひも解きながら、誰にでもわかりやすく、そして楽しく、魂に直接語りかけてくるかのようで、全国にファンが多数おられます。

赤塚さんの講話を聴くと、日本に産まれたことが心から有難いと思えます。日本人であることが、本当に誇らしく思えます。そして、今日、今、自分に出来る小さな何かを探し始めることでしょう。

その思いはきっと、今を生きていくうえでの力となり、ひいては、百年先、千年先のヤマトの国、日本を守ることに繋がっていき、信じております。

吉田松陰が産まれた土地、山口には志の高い人が多くおられます。赤塚さんのお話は、きっと皆様の心にも灯りを点してくれるはず。ぜひ一人でも多くの山口の方々に聴いていただけることを願っております。

主催 こどもの未来を守る会（山口）

大変残念ですが、赤塚さんは今回の講演会を最後に、講演活動を終えられることになりました。最後と知って、県外からのお申し込みも多数予想されます。この貴重な機会を逃すことのないよう、ご興味がお有りの方は、ぜひ早めのお申し込みをおすすめいたします。

講演日 2016年11月27日（日）
開場 ピピ510 Mホール
時間 13時30分～15時30分（予定）
（13時開場）
定員 130名
参加費 大人 2,000円
大学生 1,000円
中学・高校生 無料

（大変申し訳ありませんが、小学生以下のお子様のご参加はご遠慮願います）

お申し込み・お問い合わせは
やつづか歯科医院まで

☎ 0834-21-1639

FAX 0834-21-1659

✉ ryo20-ko18-mi15@i.softbank

♣通常は、診療をしておりますので、出来るだけ、FAXかメールでのご連絡をお願いいたします。